



Exotic 探索まとめ 1 (光子 & フェルミオンの共鳴探索を中心に)



新学術領域研究「ヒッグス粒子発見後の素粒子物理学の新展開」キックオフ会議

標準模型を超えて

2/35

- 素粒子標準模型は実験をよく再現する優れた<u>模型</u>
- でも多分、超高エネルギーまで万能な<u>理論</u>ではない
 階層性問題 (不自然に弱い重力)
 - ダークマター
 - パラメーター数
 - フェルミオンの世代
 - 力の統一
 - etc..

きっと何かはあるけど、どこになにがあるのかはわからない 100 GeV – 10 TeV 領域を包括的にカバーする戦略で探索

イベントトポロジーベースの戦略

• 二体崩壊過程の共鳴をベースに新物理を探索

$$-$$
 jet – jet (qq, qg, gg)
– jet – γ (q γ , q γ)

広い物理モデル 様々な新粒子をカバーする探索

次の野辺さんのトークで、W, Z, H 共鳴、 Boosted object を含む共鳴、 ダークマター対生成探索がカバーされます。

トークの内容

4/35

• 光子検出性能についての議論

- 2 光子共鳴探索
- 2 ジェット共鳴探索
- 荷電レプトン共鳴探索
- 第三世代に注目した共鳴探索

ATLAS 実験の公式結果一覧 <u>https://twiki.cern.ch/twiki/bin/view/AtlasPublic</u> CMS 実験の公式結果一覧 <u>http://cms-results.web.cern.ch/cms-results/public-results/publications/</u>



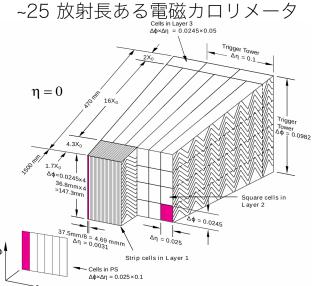


光子検出性能 についてのまとめ

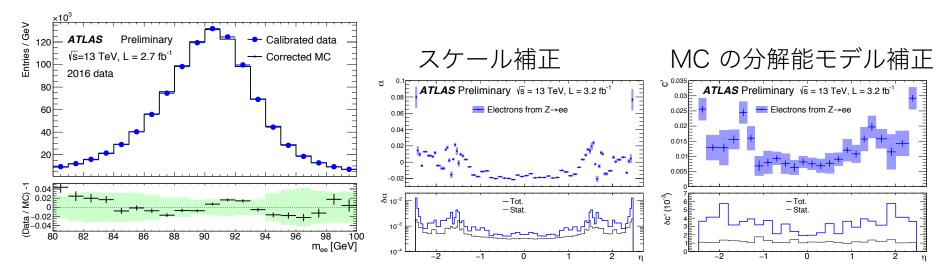


光子の再構成 (ATLAS)

- 電磁カロリメータによるエネルギー再構成
 - 複数のカロリメータ層の情報を
 用いたエネルギー測定
 ・ カロリメータ前のエネルギー損失も補正
- $\frac{\underline{x} + \underline{x} + \underline{x} + \underline{y} + \underline{y$

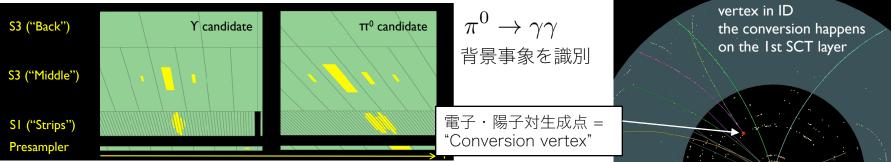


• 2016 年のデータを用いた calibration └── └── ´ – Z→ee データを用いてエネルギー再構成の性能を実証

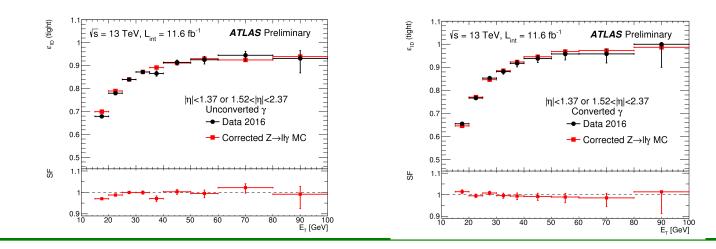


光子の同定 (ATLAS)

• 電磁シャワー形状の解析による光子選別

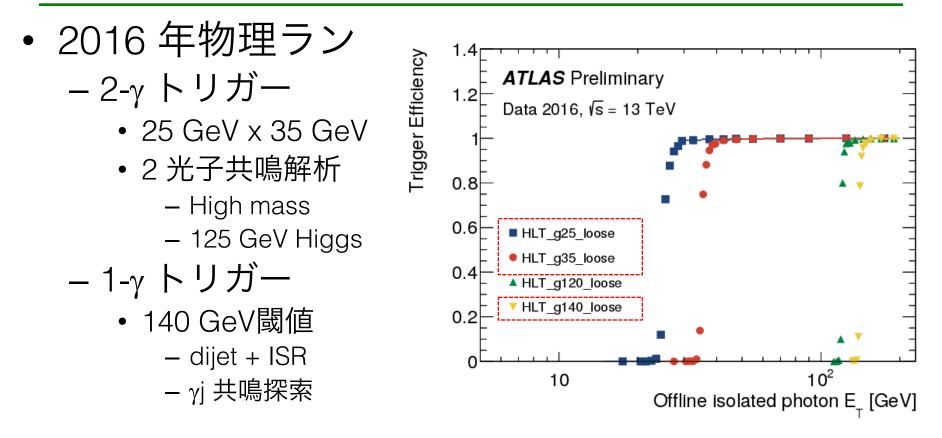


同定効率のデータを用いた評価
 – Z→llγ (Radiative Z) を用いた測定



光子トリガー (ATLAS)

X/35



オフライン光子に対するトリガー効率測定
 – Trigger 効率の plateau でデータ解析





2 光子共鳴探索

2 光子に崩壊する共鳴探索

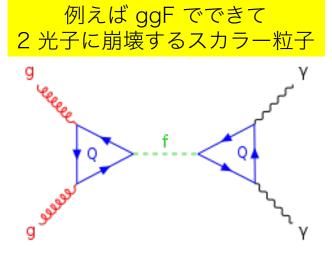
二光子に見えうる新物理現象の例 - スカラー、擬スカラー(2HDM / 複合スカラー) - Graviton の KK 励起状態 シンプルなデータ解析 - スムーズなバックグラウンドスペクトラム上における共鳴を探索 - 2015 年データ (~3/fb) において超過を観測 @ 750 GeV 2.7 fb⁻¹ (13 TeV, 3.8 T) ATLAS $\sqrt{s} = 13 \text{ TeV}, 3.2 \text{ fb}^{-1}$ Spin-0 Selection Events / 20 GeV ATLAS Data x/mx [%] -ocal significance [σ] 10³ EBEB Fit model Background-only fit Events / 20 GeV ± 1 s.d. 3.5 Spin-0 Selection ± 2 s.d 10² √s = 13 TeV, 3.2 fb⁻¹ 2.5 10 CMS 1.5 fitted backgroun data-fit)/σ 2 0.5 1000 1200 1400 400 600 800 1000 1200 1400 1600 1800 2000 200 600 800 1000 1200 1400 1600 1800 $m_{\gamma\gamma}$ (GeV) m,, [GeV] m_x [GeV] 2016年の4倍の統計で追試

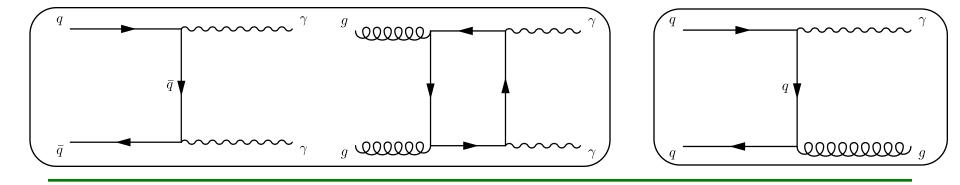
> ATLAS : arXiv:1606.03833 CMS : Phys.Rev.Let. 117(2016), no. 5, 051802

)/35

信号とバックグラウンド

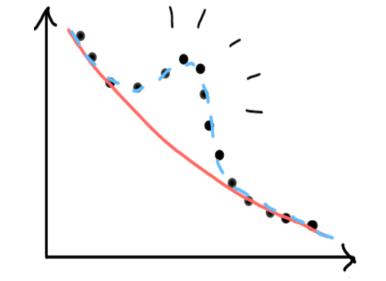
- 新物理の信号
 - Spin-0 共鳴 (例: High mass ヒッグス)
 - Spin-2 共鳴 (例: Graviton の KK 励起)
- バックグラウンド
 - 2 光子を含む標準模型事象 (irreducible background)
 - 指数関数的な微分断面積
 - ・ "t-channel" の角度特性
 - 2 光子を含まない標準模型事象 (reducible background)
 - 光子同定 + Isolation カットで落とす





解析のコンセプト (ATLAS)

- 2 光子トリガーによるデータ収集
 35, 25 GeV
- オフラインイベント選別
 2 つ光子を終状態に検出
 "Tight" な光子同定
 - Isolation カット
 - 高横運動量
 - イベント毎の2光子系の
 不変質量に相対的なカット
 - pT1>0.4M, pT2>0.3M
 - "Spin-0 解析" と呼ばれるカット



m_{vv}

12/35

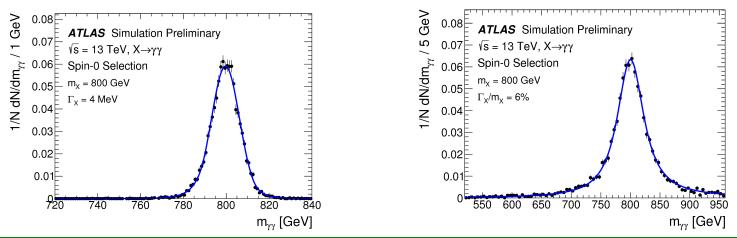
• 不変質量分布を解析し信号 (有無)を決定

- バックグラウンド +信号でモデル (smooth な指数関数 + 共鳴)

信号のモデル

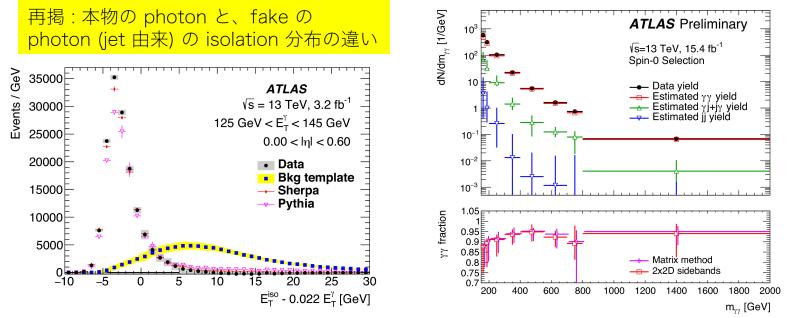
K/35

- 信号の不変質量分布 (共鳴) のモデル
 - 200 GeV 2.4 TeV までの質量領域の Γ/m<10% の シミュレーションサンプルを準備
 - Bright Wigner 共鳴を、Double-Sided Cristal-Ball 関数で 畳み込んで、信号共鳴形状を関数系で表現
 - ・ 典型的な検出器の分解能による共鳴の太さ~1%
 例: σ=2.3 GeV @ 200 GeV, σ= 15 GeV @ 2 TeV
 - •エネルギー測定分解能が決める場合(左)
 - 物理のWidth が幅を決める場合の例 (右)

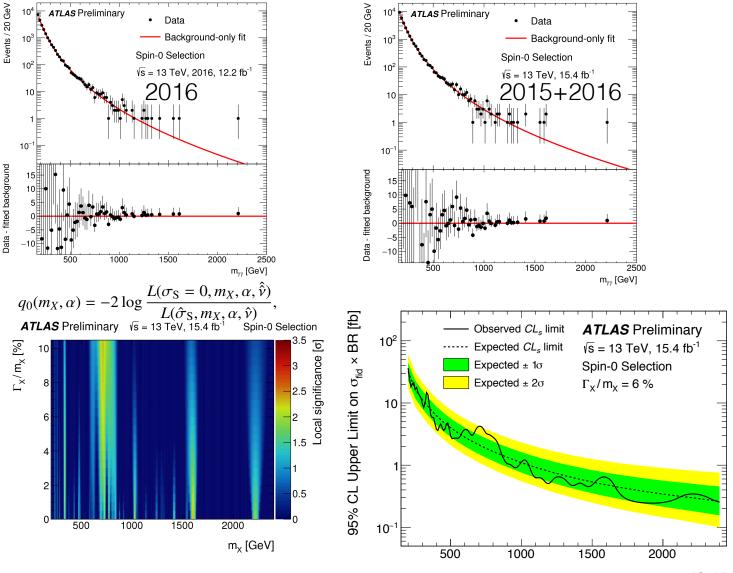


バックグラウンドのモデル

- バックグラウンドで分布をモデル – 標準模型の $\gamma\gamma$ 事象の関数系は Sherpa MC を用いて決定 – γ j、jj の関数系はコントロールサンプルを用いて決定 $f_{(k)}(x; b, \{a_k\}) = N(1 - x^{1/3})^b x^{\sum_{j=0}^k a_j (\log x)^j}$.
- Calorimeter isolation の分布を用いて測定 γγ、γj、jj を成分分解
 - Isolation カットをかけると 90%の purity であることが確認



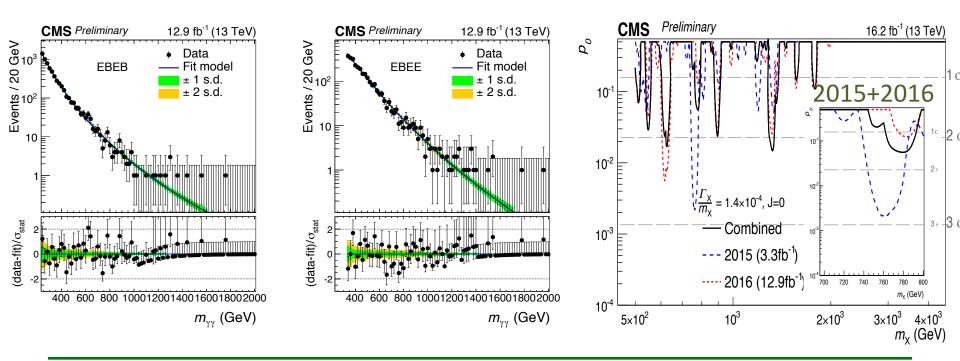
2016 年データフィット結果



m_x [GeV]

CMS の結果







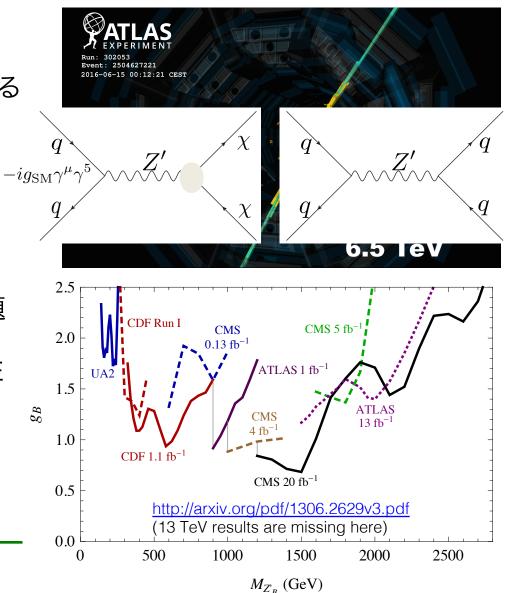


2 ジェット共鳴探索

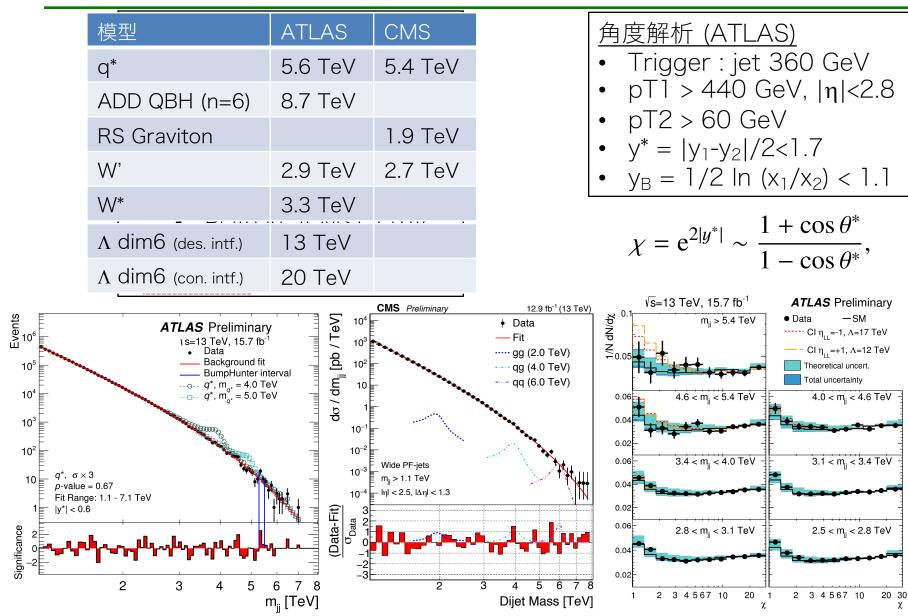
18/35

解析戦略

- 新粒子の 2jet 終状態への BF は一般に大きい
 - 終状態のカラーの自由度による
- "High mass" 探索
 - マルチ TeV の共鳴
 - 余剰次元&量子重力 (QBH /KK Graviton生成)
 - 複合クォーク模型 (Excited quark)
 - 13 TeV 物理解析の最重要課題
- "Low mass" への拡張の必要性
 - Dark Matter mediator の理解
 - トリガーバイアス
 - ISR をつかった解析
 - Data scouting を用いた解析



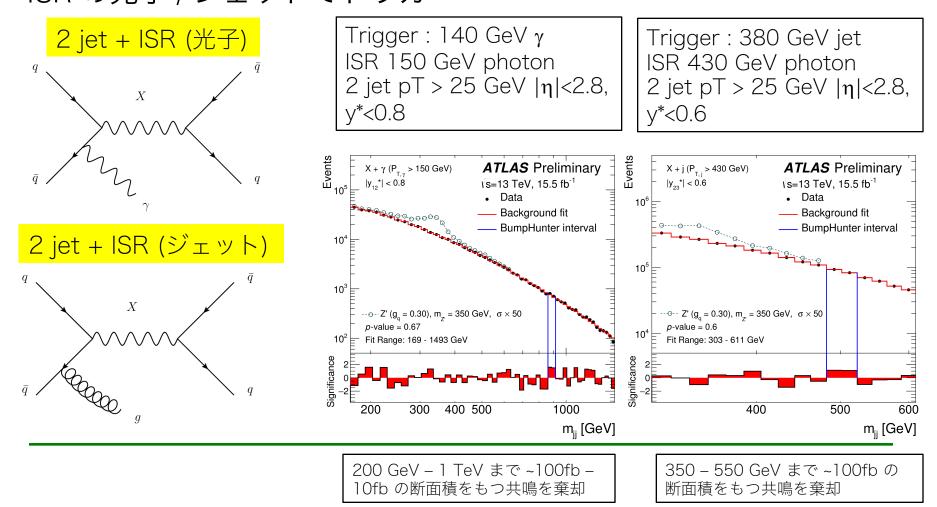
High mass:dijet 探索



Low mass : ISR + dijet

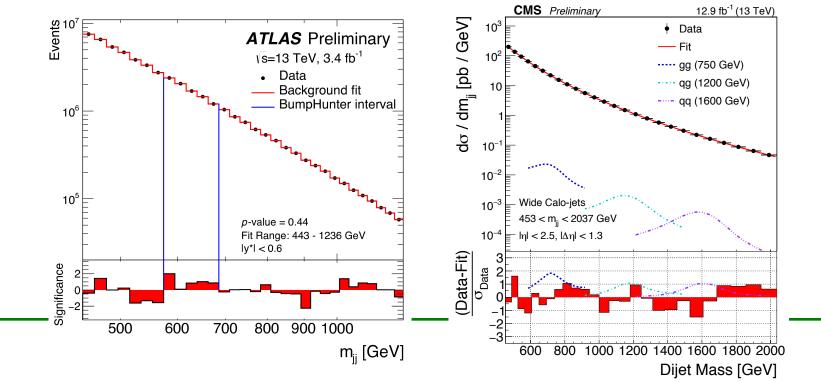
1/35

シングルジェットトリガーを使った解析は高い pT を要求 (440 GeV)
 – Mass がバイアスされ 1 TeV より低い領域を議論するのは困難
 ISR の光子 / ジェットでトリガー

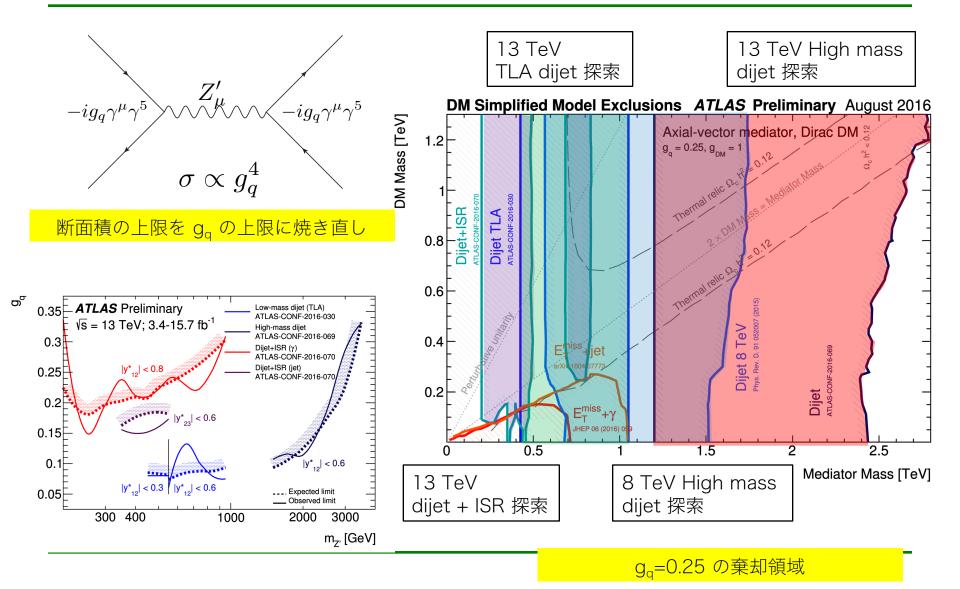


Low mass : Trigger-object level analysis

- HLT-reconstructed jet のみを high rate で記録する 特別なデータ収集法("data scouting")
 - ATLAS : "L1 jet trigger (J75)" を満たしたイベントを収集
 - 低い Jet pT カットで解析 (440 GeV → 185 GeV)
 - CMS: HLT の trigger 条件を緩和
 - HT 800 GeV → 250 GeV
- M(jj) ~ <u>500 GeV</u> まで共鳴探索の範囲を拡大



- クマターに対する解釈



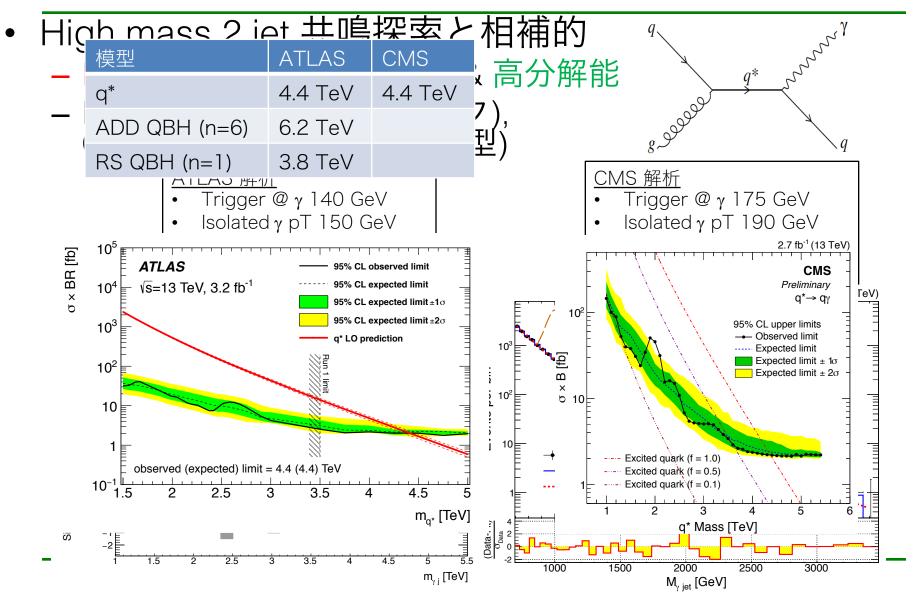
Note:講演後8TeVの棄却領域の塗りつぶしが正しくなかったのを修正しました。





光子 + ジェット共鳴

光子 + ジェット共鳴探索

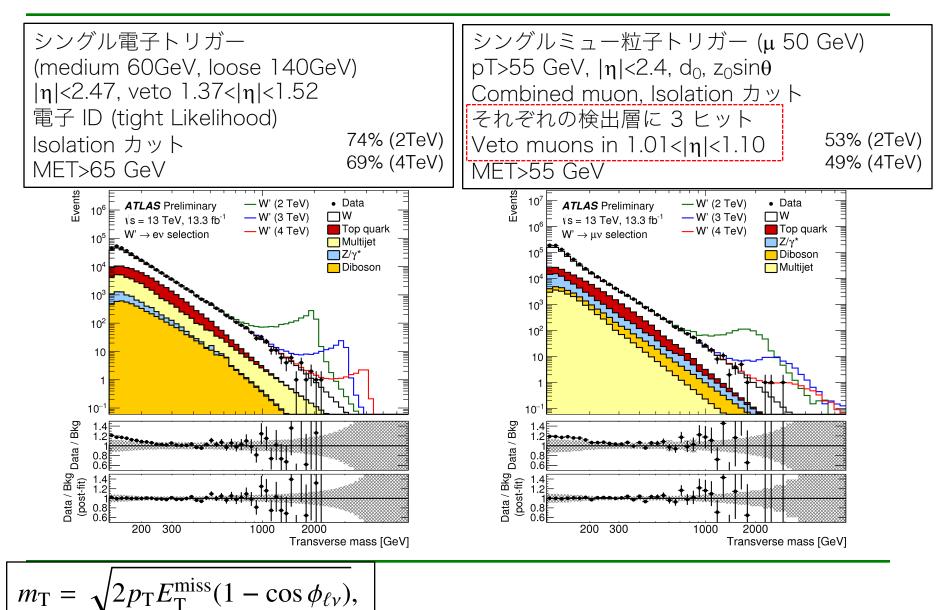






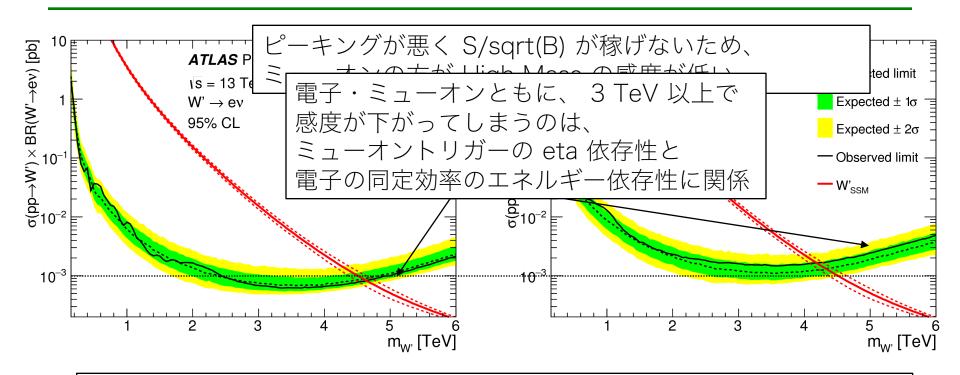
荷電レプトンを含む終状態 に注目した共鳴探索

W'→lv 探索



W'→lv 探索

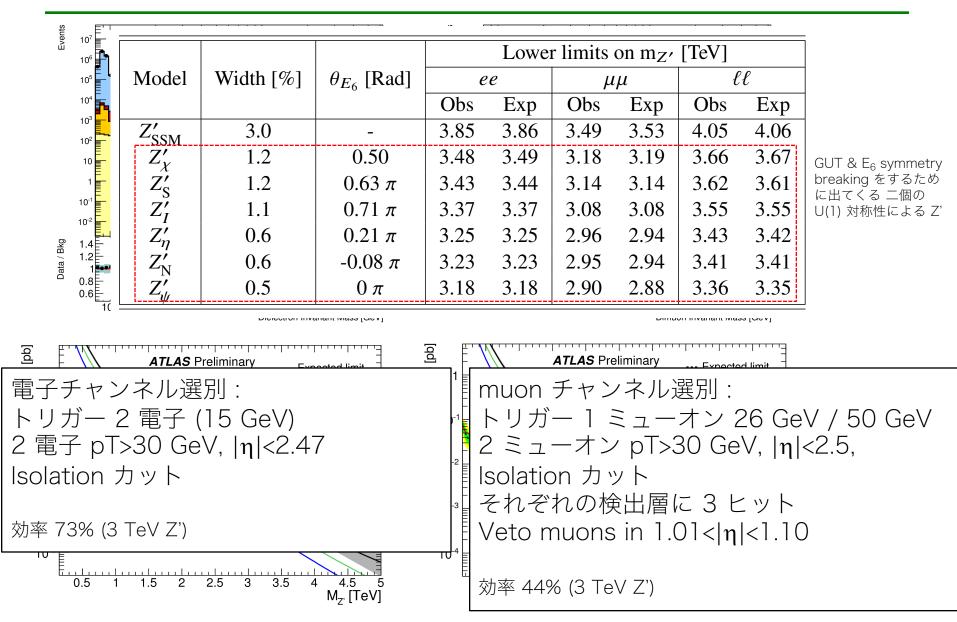
27/35



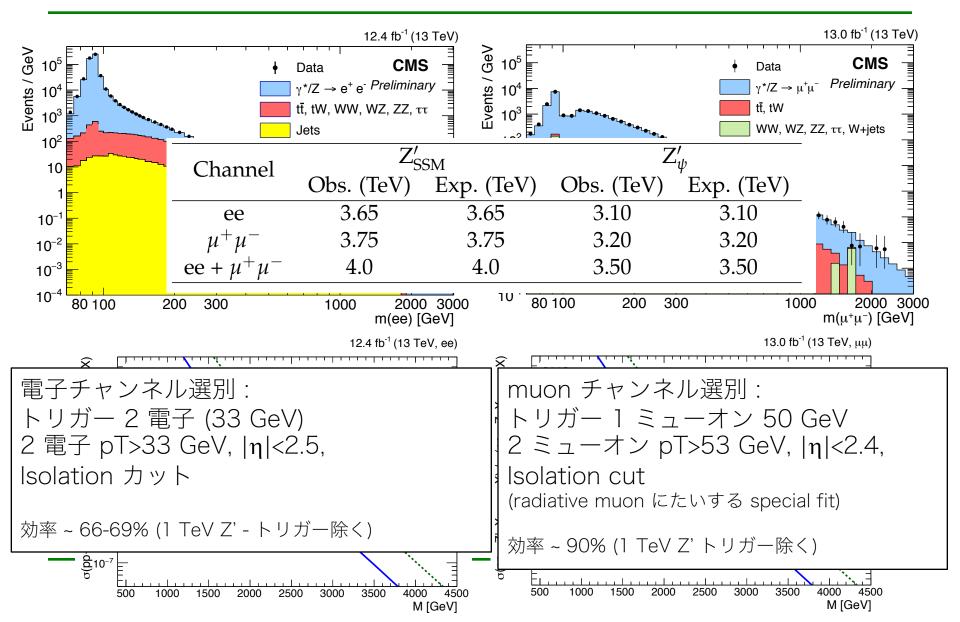
W'質量を仮定した際の Sequential Standard Model の棄却 (95% CL) 電子チャンネル:m_{W'} = 4.6 TeV (4.6 TeV expected) ミューオンチャンネル:m_{W'} = 4.2 TeV (4.3 TeV expected)

Combined results : $m_{W'} = 4.7 \text{ TeV}$ (4.8 TeV expected)

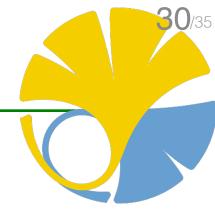
Z'→II 探索 (ATLAS)



Z'→II 探索 (CMS)

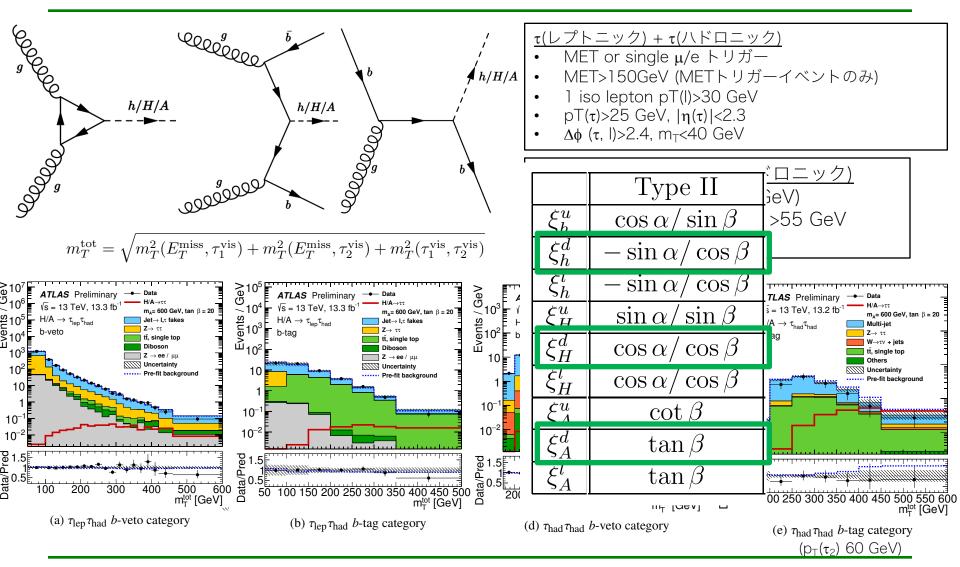




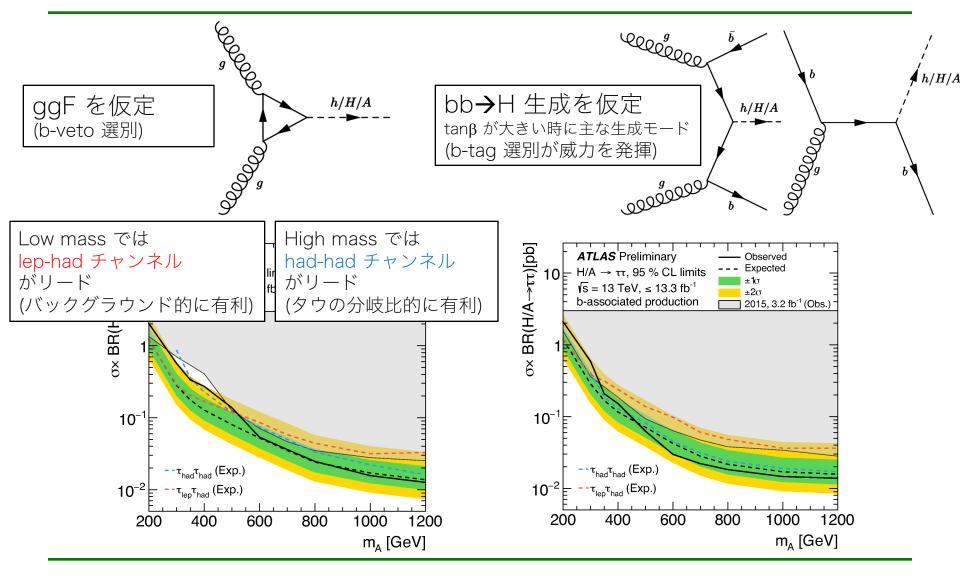


第三世代に注目した探索 (2HDM に注目)

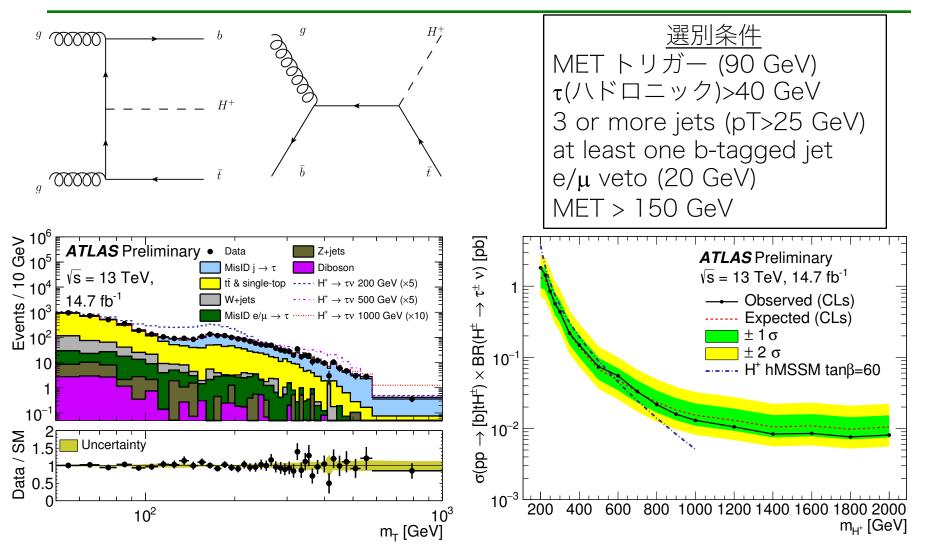
ττ 共鳴 (ATLAS)



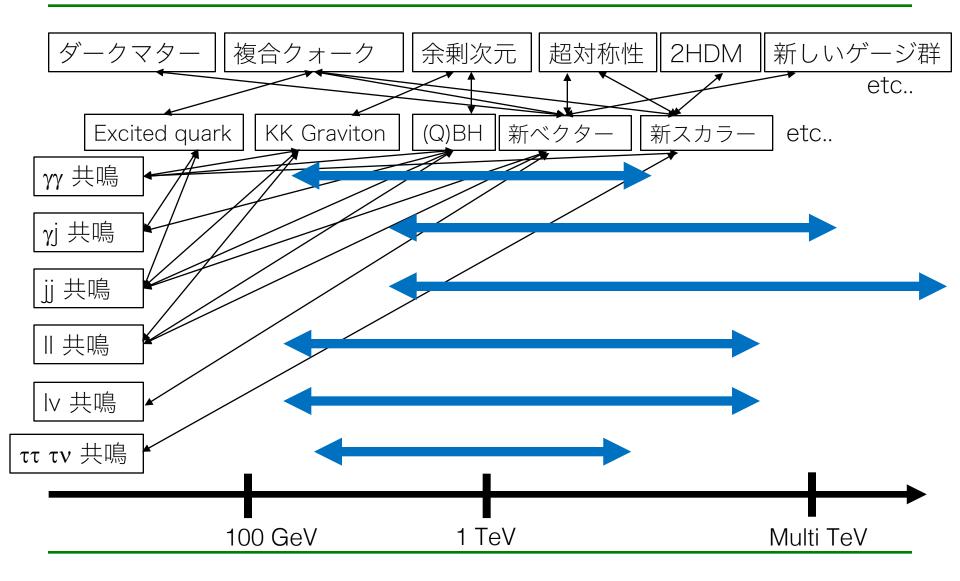
ττ 共鳴 (ATLAS)



τν 共鳴 (ATLAS)



34∞ 共鳴探索としてのアプローチのまとめ



まとめ

- 750 GeV 2 光子のアップデート (12-15/fb)
 ATLAS/CMS ともに 2015 年の超過は再現されず
 仕切り直し
- 多角的な共鳴探索を O(100GeV) multi TeV で進行中
 - 広いパラメタ (質量) 領域をカバー
 - Low mass dijet 共鳴の探索手法の確立
 - 様々なイベントトポロジーで多くの物理シナリオをカバー
 - 今の所新物理の兆候はなし、探索を継続
- 時間の都合でカバーできなかった内容
 - Ij 共鳴探索 (レプトクォーク)、Zγ 共鳴探索 (2 光子と相補的)
 - 共鳴以外の <u>the exotic</u> な探索 (長寿命、高電荷粒子探索等)
 他にもたくさん
 - ATLAS / CMS の public page でご確認ください